

小泉復興大臣政務官記者会見録

（味の素（株）訪問～「心の復興事業」～）

（平成27年10月1日（木）11：35～11：42 於）東京都中央区）

1．質疑応答

（問）「心の復興事業」の一環としてこういった取組があるということですが、こうした民間の取組というのは、どのようにお考えで。

（答）民間の活力なくして復興なしだと思います。今回、今までの日本の自然災害の中で、これほど民間企業が復興に関わり続けた歴史はないと思うし、更に、ここまで継続的に関わりを続けてくださっていることも歴史上初めてだと思います。その民間企業のやっている取組の幅の広さ、そして取組の充実さ、それは、今日の味の素さんが一つの象徴ですけど、それぞれが自分たちで何ができるか、そして、他社がやっていることとは違う、自分たちの会社の強みを活かして復興支援につなげるという発想で主体的にやってくださっているのです、本当に復興庁としても、これからも民間の皆さんのそういった取組は多くの人に知らせていきたいし、これからも協力をお願いしたいなと、そう思っています。

（問）社長としては、いかがでしょうか。

（味の素（株）社長）大変ありがたいお言葉をいただきましたけれども、おっしゃるとおりで、我々も実際の活動をしますというときには、地元の市町村の行政の方々、それから、社会福祉協議会の方々、それから、何よりやっぱり地元の栄養士の方々が被災地にしっかりと足をおろして、根を生やして、そういう活動をしてもらえるんですね。我々はそのお手伝いを少しさせていただいているという立場だと思っていまして、こういう民間と行政、それからNPOも含めた地域の皆さんとの結びつきでもってこれが長続きするんだと思っております。そういう環境をぜひ大事にしながら、継続的にやっていきたいと思っております。

（答）あと、味の素さんみたいな、日本の誰もが知っているような大きな有名な会社さんが関わりを持ってくれるというのは、すごく大きな波及効果があって、まず、会社の社員さんの数が多いですよ。それで、社員の皆さんが実際にボランティアとかCSRとかいろいろな取組で関わりを直接現場で持つことで、その社員さん一人一人が、これからも被災地と継続的に関わりを持ってくれる。そして、被災地にとっても、恐らく今まで大会社さんの社長自らが、小さな町に足を運んで、皆さんと触れ合っという機会が、震災前にあったかというのと、僕は、なかったと思うんですよ。そういったつながりが実際に感じることで、4年半経っても、

まだやってくれている、また来てくれた、これが被災地に与える大きな勇気、力というのは、まさに「心の復興」という名の事業にふさわしいと思って今日もお邪魔をさせていただきました。

(問) 政務官、常々、復興に携わっていきたいということをおっしゃっているかと思うんですけども、来週7日には内閣改造が予定されていますけれども、またどういった立場で復興に携わっていきたいのか、また、どういった立場で、この政府を支えていきたいのかというのはありますでしょうか。

(答) 今必死で振りを探しましたね？復興は、私は野党のときからずっと関わり続けていますから、これから自分がどういう立場になっても、復興は関わりを続けると、そして、最後までやり遂げると、その思いに変わりはありません。

(問) 例えば、安倍総理から、復興大臣をやってくれと打診があれば、どうされますか。

(答) ないです。

(問) 根拠は。

(答) 多分、今こうやってそういった質問が出るのは、総理からしても、全く考えていないのに、どうしてそういうことが出るのかなと思っています。自分も、まだまだ修行、修行と。味の素さんだと、34歳だと、立場的にどれぐらいですか。

(味の素(株)社長) そうですね、一番若い課長さんでしょうか。一番若い課長にもにまだいかないかもしれませんね。

(答) 課長にもいかないですから。

(問) 今日、料理をされましたけれども、普段、料理はされることというのはあるんでしょうか。

(答) レンジは大活躍していますね。だから、今日、三浦さん考えてくれたんじゃないかな。

(問) 政務官が考える男の料理というのは、コツとかそういうのはありますか。

(答) さっき僕、言いましたけど、豚のしょうが焼きが大好きなんです。特に、薄いペラペラのお肉の豚のしょうが焼きが大好きで、子供のころから家で食べていた豚のしょうが焼きというのは、ものすごく簡単につくり方で、漬け込みをしない、肉を、薄いからすぐ炒めるんですけどね、それが最後でき上がるときに、もともと醤油の中にショウガをといてあって、それを最後、ジャッとフライパンの中に入れて絡めるだけででき上がりなんですよ。だから、甘いよりもちょっとショウガが強い、そんな豚のしょうが焼きが僕にとっては最高の食事かな。

(問) 男の料理というのは、やはりそういう簡単に、すぐ手早くという。

(答) だけど、おもしろいのは、料理の世界って有名な料理人さんで男性のほうが多いですね。だから、男の料理って、実は多くの人が抱いている、豪快で大雑把で、味が濃くて、ボリュームがあって、まあ、おいしいというよりも、実は突き詰めていくと、料理においてはすごい繊細さを発揮するのが、結構男の料理もイメージ二つあるんじゃないかな。間違いなく、僕は前者のほうだと思いますけど。

(問) 先ほどの人事の話で恐縮なんですけど、昨日、政務官、「僕は勘違いはしないんで」というふうにおっしゃってしまして、今、年齢も若いし、というふうなお話もありましたけれども、その「勘違いをしない」というのは、総理という上司からの打診を断るといのが勘違いなのか、それとも、大役を受けるといのが勘違いなのか、どういうふうに受け止めればよろしいでしょうか。

(答) 大体こういう時期になると、政治の世界、報道の世界というのは人事というのに燃えるんですけど、よく「こういったことが言われていますが」と言っている人が言っている人というケースが多々ありますから、私、本当に思いますよ。恐らく、総理や官邸付近は理解できないんじゃないでしょうかね。小泉進次郎、もともと使う気ないよと、それは報道が言っているんだよと思っているんじゃないでしょうか。だから、勘違いはしません。

(問) でも、出世したほうが、人も予算も動かして復興が加速しませんか。

(答) まあ34歳でね、自分がまだまだ至らないところがいっぱいあるというのはよく痛感しますよ。官僚との関係、ほかの政治家の先輩たちとの関係、いろいろありますし、何より、今、大臣やりたい人いっぱいいますでしょう。

(問) いますね。

(答) やりたい方がいっぱい上に控えていますから。

(問) 副というのは、副はどうですか。

(答) いやいや。今日は副菜がおいしかったですね。

(以 上)